

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 医学系研究科・医学部(医学科)

項目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、選択実習において海外での臨床実習、地域医療実習、基礎医学研究など学生のニーズにあわせた体験型実習を推進するとともに、栄養士と薬剤師の参加による臨床導入実習の実現により多職種連携による医療の重要性を認識させる機会を作ったほか、臨床教授枠を232名まで増枠させ、プライマリーケア及び地域医療教育を目的とした関連病院での臨床実習の充実を図るなど積極的に取り組んでいる。また、基礎医学研究者の育成を目指したMD研究者育成プログラムのさらなる推進、博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」の教育の開始、学生専用自習室の設置など適切に実施し、大学の実績として評価できる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、血中の老化因子の同定 (Cell 誌)、神経細胞の再生機構や脳内での神経細胞の保護の解明 (Nature Medicine誌, Nature Neuroscience誌)、心不全の新たな発症機構の発見 (Nature誌)、オートファゴソーム形成機構の解明 (Nature誌) などの成果が国際的にも高く評価され、各種新聞、テレビでも報道され、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、持田記念学術賞などを受賞するなど特筆すべき成果が上がっている。さらに、グローバルCOEプログラムの着実な推進、博士課程教育リーディングプログラムの活動を支援し、未来戦略機構の中に他の部局と連携し創薬基盤科学研究部門を設置することに尽力するなど積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。また、生命科学研究独立アプレンティスプログラムに基づき、1名のテニュア特任准教授(常勤)の移行審査を実施し、テニュア准教授ポストへ移行することを決定するなど適切に実施している。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、産学官との連携の推進によって共同研究60件、受託研究8件を契約し、寄附講座を27件受け入れ、50件の特許出願を行う、社会人入学を推進し、社会人受入可能講座数を32講座から46講座に増加するなど適切に実施している。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	<p>【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」を推進する中で、新たに(独)医薬品医療機器総合機構との間で連携大学院を設置したほか、大阪大学未来基金に「医学系研究科・医学部教育研究事業」を設け、教職員、卒業生等から12,000千円超の寄附を受入れ、学生支援のために運用するなど積極的に取り組んでいる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>
5. 全体の項目に関する達成状況		<p>【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。</p> <p>【特記事項】 平成24年度は、基礎医学研究者の育成を目指したMD研究者育成プログラム、グローバルCOEプログラムを着実に推進するとともに、博士課程教育リーディングプログラムの活動を支援するなど、積極的に取り組んでいる。</p> <p>【留意事項】 特になし。</p>